朝の会・帰りの会

→特別活動 →学級づくり

毎日の始業時，終業時にそれぞれ 10 分間程度実施される，学級を単位とした集会。中等教育ではショート・ホームルーム（SHR），短学活などと呼ばれることもある。出欠確認，連絡事項の伝達，提出物の収集，印刷物の配付といった事務的な仕事を処理する場であると同時に，児童・生徒によるスピーチや相互評価・一日の反省・歌やゲームなどのレクリエーション活動による児童・生徒間の交流を通じた学級集団の生活共同体化，会の企画・運営を児童・生徒に委ねることによる彼らの自治能力の涵養，学校生活の開始と終了を明確にすることによる生活のけじめ等の機会として活用されている。「一日の反省」が同級生のささいなミスを非難する場となるなど，学級内の望ましくない人間関係を助長する可能性もはらんでいる。実態としては学級活動に準じた特別活動とみなしうるが，1958（昭和 33）年版以降の学習指導要領に明確な位置づけはされていない。なお，1947 年版学習指導要領（試案）には「相談の時間」として朝の会が，1951 年版（試案）にはこれに加えて「今日の仕事の反省」として帰りの会が提案されている。

近年集団生活を苦手とする児童・生徒が増えているといわれるが，学級が学校生活の単位になっている現状では，学級の生活共同体化を図ることは平穏な学校生活を維持する上で重要であり，朝の会・帰りの会が学級の生活共同体化に果たしうる役割は大きい。特に教科担任制を採用している中等教育では，朝の会・帰りの会は，学級担任が学級の生徒と継続的に活動する数少ない機会の一つである。朝の会・帰りの会の活用によって「荒れる学級」の克服に成功した実践も報告されている。ただし実際には，学年が上がるほど朝の会・帰りの会は簡略化されて単なる事務処理の場とされたり，省略されたりする傾向がある。

（山田雅彦）